

ボランティアなど社会に役立つことをしたい



今野 真紀さん 東北文化学園大学医療福祉学部2年

看護奨学生 今野 真紀さん



1月8日、宮城民医連の看護奨学生、今野真紀さん(20)が成人式を迎えられるということで、名取市文化会館の成人式会場でお話を伺いました。会場は震災直後、被災者の避難所になっていた場所でもあります。

今野さんは、利用者さんを助けるために亡くなられた松島医療生協“なるせの郷”所長土井芳子さんの姪です。看護師になることを決めたのは中学生の頃。お母さんが福祉の仕事をしていてその影響も。民医連の奨学生になったのは、高校生のとき「1日看護体験」で、坂総合病院を訪れた際に、「病院のスタッフさんや雰囲気がとてもよく、ここで働いてみたいと思った」と話してくれました。現在は東北文化学園大学看護学科の2年生で、3月からは山形大学医学部附属病院での実習も始まります。「授業や実習は大変だけれども、楽しいので頑張ります」とのこと。それでも3.11の震災後、被災者のために何かできることをしたいと、大学の先輩と一緒に、名取市桜団地の仮設住宅に週に1回出かけて、血圧測定やお話しを伺う活動をしています。将来やってみたいことを尋ねると「看護師をしながら、地域に出て、ボランティアなど少しでも社会に役立つ事をしたい」とのこと。成人式を迎えて家族へのメッセージは?の問いに、「両親とも看護師になることを応援してくれているので、嬉しい、とても感謝しています」と話してくれました。

民医連と一緒に働ける日が楽しみです。(取材 神馬 悟)

松島九条の会で成人式署名



署名活動の井上博之先生

日本三景松島には平和が似合う

1月8日、松島九条の会(松島医療生協、松島母親連絡会、松島高齢者年金組合など加盟)では、成人式会場の公民館前で「成人式署名」とチラシ、ティッシュの配布を行いました。チラシは成人おめでとうと分かりやすい文章、ティッシュには名刺に日本国憲法第9条が印刷されています。

署名してくれた新成人の赤間美春さんは「これまで日本で戦争がなかったのは、憲法九条があったからだと思います」と話してくれました。



松島九条の会のみなさん